

米沢藩中条氏における系譜認識と文書管理

前嶋 敏

Study on the Nakajo Family in the Yonezawa Domain : Their Genealogical Understanding and Document Management

MAESHIMA Satoshi

はじめに

- ① 系図、由緒書等における中条氏の系譜認識の変遷
- ② 中条氏における伝来文書の整理
- ③ 中条氏の文書管理と「中条家文書」

【論文要旨】

本論文は、一七世紀中葉～一八世紀前半の米沢藩中条氏における戦国末期～近世初頭の当主の系譜に対する認識について、中条氏に伝来した系図・由緒書等および同氏の文書整理・管理の状況から検討するものである。本論文では以下の点を指摘した。

① 中条氏では、一七世紀中葉～後半頃の段階においては、戦国末期の当主が忘れられている状態であり、とくに中条景泰という当主の名を認識していなかった。しかし、一八世紀前半にはそれを景資という当主の改名後の名としている。なお、さらにその後には作成された系図等では景資と景泰は別人と理解されている。② 中条氏では、一七

世紀中葉以降には、文書の整理・収集等を通じて系譜の復元が行われていた。そして元禄四～七年の間に景泰の名を記す文書を収集し、その名を認識するにいたったと考えられる。また同氏では一七世紀後半までの文書整理と同じ方針でそれ以後も管理を継続していた。このことは、中条氏が同氏の系譜・由緒等に対して高い関心を持ち続けていたことを示しており、戦国末期の当主に対する認識をその後さらに変化させたことにもつながっていたと思われる。

【キーワード】 中条氏、中条景泰、系図、由緒、文書管理